

2025年
(令和7年)

4月4日

金曜日

知・技の創造

ものづくり大学発

▷113◁

コミュニケーションの重要な手段の一つである音声には、文字で表せる言語情報だけではなく意図や感情などの情報が含まれており、音声を適切に文字化とは異なる形のコミュニケーションを取る必要があります。こうした音声を含む情報については古くから研究が進められてきました。その中の一つである感情については主に声の高さや大きさ、話す速さといった韻律が大きく関わっていることが知られています。

例えば、喜びの声は高く・大きく・速くなり、悲しみの声は低く・小さく・遅くなる

「大丈夫です」と言ったとき、本当に大丈夫なのか、それとも無理をしているのか、といった文字面だけでは分からないことを感じ取ることができるとです。また、感情のよう

な明確な特性だけではなく、私たちが日常生活で話するとき、場面に応じて声の調子が研究を一つ紹介します。そ

話し相手で声が変わる

石本 祐一 情報メカトロニクス学科准教授



「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

いしもと・ゆうち 北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程修了。博士(情報科学)。国立情報学研究所、国立国語研究所等を経て2022年4月より現職。

「妻」と「義」の音声表現が母が「いる場面」で妻に向かう期待されます。

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)友人知人・生徒に対する声は高くなる。(3)先生に対する声は低くなる。(4)同僚・取引先・客に対しては、子ども・配偶者よりも高く、友人知人や生徒よりも低くなる。このように人間は、発話の内容などによって声の高さを変化させながらコミュニケーション

の状況が大きく変化した。この状況を大きく変えたのが、2022年に国立国語研究所が公開した「日本語の聞き手に向けて話す声の高さ」の研究。この研究では、話し手に対する聞き手の関係性(友人知人・生徒・同僚・取引先・客の10種類)に分類しました。これら

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)

「さ」を統計的に分析したところ、次の傾向が見られました。(1)子ども・配偶者に対する発話では声が低くなる。(2)